

フジイロアマタケ (キンメジ科)

Baeospora myriadophylla (Peck.) Sing.

高さ 28 ~ 32mm。傘は 19 ~ 29mm, 円錐形から市女笠形, のち平らに開き, 反り返る。中央部は隆起し, 隆起頂部はへそ状にくぼむ。縁部は幼時内巻き, のちやや不規則に波打ち, 裂片状。幼時藤色で後褐色を帯びる。表面は白色のかすり模様があり, 不明瞭な条線をもつ。肉は薄く, 約 1mm。濃藤色, 肉質。匂い, 味は温和。ひだは密で小ひだあり。藤色, 薄く, 縁部平滑, 上生。柄は 25 ~ 30 × 1 ~ 1.5mm。やや藤色がかった褐色。上下同大, 表面に白色微毛があり, 基部に白色の基部毛をもつ。中空 (図 3)。胞子は 3.5 ~ 4 × 2 ~ 2.5 μ m 広卵形~広楕円形, 担子器は 4 孢子型。縁シスチジアは 28 ~ 38 × 5.5 ~ 8 μ m, 紡錘形で先端が長く伸び尖る。側シスチジアもほぼ同型で, 34 ~ 42 × 6 ~ 10 μ m。柄シスチジアは棍棒状~先端の長く伸びた紡錘形で, 24 ~ 41 × 6 ~ 10 μ m。クランプをもつ。

供試標本 20030909100F (自環保セ), 2003 年 9 月 9 日, 足柄上郡山北町檜洞丸, ブナ林, ブナ倒木上に群生, 西村幹雄・長倉泰司採集; 20040824026 (自環保セ), 2004 年 8 月 24 日, 足柄上郡山北町檜洞丸, ブナ林, ブナ倒木上に群生, 藤澤示弘・西村幹雄採集; KPM-NC0011978: 2003 年 8 月 25 日, 足柄上郡山北町檜洞丸, ブナ林, ブナ倒木上に群生, 西村幹雄・西山徳行採集。

本種は, 神奈川県丹沢山 (1970 年 10 月 2 日), 奈良県大台ヶ原 (1972 年 8 月 3 日) にて採取され, 本郷 (1974) により日本新産種として, 発表された。



図 3. フジイロアマタケ.

パライロツルタケ (工藤・長沢仮称) (テングタケ科)
Amanita sp.

傘は鐘形から平ら形で中央部は盛り上がる。灰褐色, 中央部は濃色で, 縁部はピンク色を帯びる。表面は粘性があり, 縁部に溝線がある。肉は白色, わずかにピンク色がかかることがあり, 肉質。ひだはやや密, 紅色を帯びる。しばし分岐し, 小ひだがある。縁部は白色微粉状。離生。柄は白色で, 薄いピンク色を帯びる。下に太く, 基部につばをもつ。つばはない。表面はわずかにささくれ, 頂部は縦すじあり。粘性を欠く。肉は繊維質, 中空で, つめものあり。つばは白色, 膜質, 袋状 (図 4)。担子器は 4 孢子型。胞子は 8 ~ 12 × 7 ~ 10 μ m, 亜球形, 非アミロイド。

供試標本 20020821007F (自環保セ), 2002 年 8 月 21 日, 愛甲郡清川村堂平, 標高 1365m, ブナ林 (周辺樹

種: ブナ, シデ類, カエデ類) 地上, 西村幹雄・西山徳行採集; 20030821009F (自環保セ), 2003 年 8 月 21 日, 愛甲郡清川村堂平, 標高 1065m, ブナ林 (周辺樹種: ブナ, シデ類, ヤマボウシ) 地上, 西村幹雄・長倉泰司採集; 20030903004F (自環保セ), 2003 年 9 月 3 日, 愛甲郡清川村堂平, 標高 1250m, ブナ林 (周辺樹種: ブナ, ウラジロモミ, ツツジ類) 地上, 西村幹雄・長倉泰司・長谷川雄太採集; 20040804001 (自環保セ), 2004 年 8 月 4 日, 秦野市大丸尾根付近, ブナ林, 西村幹雄採集。

本種は青森県八甲田山で採集され, 日本菌学会第 43 回大会にて “*Amanita roseolamellata*” の名で口頭発表されているが (工藤, 長沢, 1999), 未だ, 正式に記載発表はなされていない。



図 4. パライロツルタケ (仮称) .

シロヌメリイグチ (イグチ科)

Suillus laricinus (Berk.in Hook.) O.Kuntze

高さ 55 ~ 69mm, 傘は 39 ~ 52mm, 饅頭形で, 褐色, 淡褐色。縁部は平滑, 傘表皮が管孔を越える。表面は光沢があり, 細かい皺をもつ。著しい粘性があり, 表皮は剥ぎ易い。肉は白色, 肉質で柔らかく, 変色しない。管孔はクリーム色~灰褐色, 孔口も同色。放射状に配置し, やや角張る。縁部は微粉状。柄は 48 ~ 50 × 10 ~ 17mm, 上下同大, つばより上はやや黄色がかった白色で, 青みを帯び, 網目模様をもつ。つばより下は被膜様の菌糸に覆われ, やや赤褐色を帯びる。肉は白色で, かさとはほぼ同質だがやや繊維状。切断すると基部付近に青変性あり。つばは褐色がかった白色で, 膜質 (図 5)。胞子は 12 ~ 14 × 4 ~ 5 μ m, 紡錘形, 長楕円形, 縁シスチジアは 56 ~ 76 × 6 ~ 10 μ m, 棍棒状。側シスチジアも同形で 60 ~ 84 × 6 ~ 10 μ m。

供試標本 20020927009F (自環保セ); KPM-NC0010554, 2002 年 9 月 27 日, 足柄上郡山北町竜ヶ馬場付近, 標高 1330m, カラマツが僅かに混じるブナ林地地上に発生, 西村幹雄・西山徳行採集。

神奈川県では津久井郡藤野町で採集された標本が県博にある (KPM-NC0000631, 1978 年 10 月, 津久井郡藤野町牧野, 若林眞樹男採集; KPM-NC0000705, 1978 年 9 月 24 日, 津久井郡藤野町, 力石 悟採集)。



図5. シロヌメリイグチ.

ゴンゲンタケ (テングノメシガイ科)

Cudonia japonica Yasuda

頭部は黄褐色で、縁部は波打ち、内側に強く巻く。裏面は白色。柄はやや扁平で赤褐色、褐色を帯びる。表面に微毛がある(図6)。胞子は糸状で、 $60 \sim 74 \times 2 \sim 2.5 \mu\text{m}$ 、子嚢は $104 \sim 125 \times 11 \sim 17 \mu\text{m}$ 、側糸は先端が屈曲する。

供試標本 KPM-NC0012480, 2003 年 8 月 19 日, 足柄上郡山北町檜洞丸, 標高 770m, ブナ, ツガ属混じりの広葉樹林, 西村幹雄・長倉泰司採集。

宮城県仙台市外の権現の森で 1914 年 10 月 11 日に採集され、記載された種(安田, 1915)で、記載文では胞子が $70 \sim 80 \times 2 \mu\text{m}$ (Yasuda, 1915) とあり、これに比べて、今回、丹沢で得られた標本は胞子がやや短い。

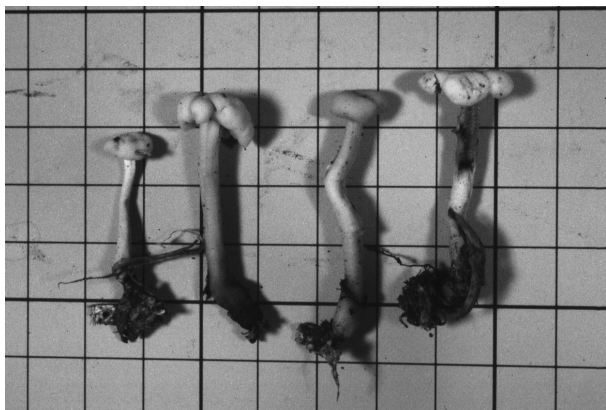


図6. ゴンゲンタケ.

コゲエノヘラタケ (テングノメシガイ科)

Spathularia velutipes Cooke et Farlow

子実体はへら形で高さ約 $30 \sim 50 \text{ mm}$ 、幅約 $15 \sim 20 \text{ mm}$ 。頭部は黄褐色で縁部波打つ。柄は扁平形で褐色、基部付近は暗褐色、表面に褐色の微毛がある(図7)。子嚢は $92 \sim 104 \times 7 \sim 10 \mu\text{m}$ 、胞子は糸状～針状で、隔壁があり、 $46 \sim 63 \times 1 \sim 2 \mu\text{m}$ 。側糸は先端が屈曲する。

供試標本 KPM-NC0011977, 2003 年 7 月 31 日, 足柄上郡山北町檜洞丸, 標高 930m, ブナ林(周辺樹種: ブナ, カエデ類, シデ類, モミ), 西村幹雄・西山徳行採集。

ヘラタケ (*Spathularia flavida* Pers.:Fr.) とは、頭部にしわがあり、柄に毛を持つ点で異なる(今関ほか, 1988)。



図7. コゲエノヘラタケ.

謝 辞

本稿をまとめるにあたり、神奈川県立生命の星・地球博物館の出川洋介氏には文献の提供や、執筆にあたり適切なご助言を頂いた。また、調査においては神奈川県森林組合連合会の皆様、長倉泰司氏、長谷川雄太氏にご協力を頂いた。ここに謹んで感謝申し上げる。

参考文献

- Breitenbach J. & F. Kranzlin, 1991. Fungi of Switzerland, vol. 3. 361pp. Verlag Mykologia, Lucerne.
Hongo, T., 1974. Notes on Japanese larger fungi (21). Joun. Jpn. Bot., 49(10): 6-17.
本郷次雄監修, 1994. 山溪フィールドブックス(10)きのこ, 383pp. 山と溪谷社, 東京.
本郷次雄・今関六也編, 1989. 原色日本新菌類図鑑(Ⅱ), xii+315pp. 保育社, 大阪.
Imai, S., 1936. Studies on the Geoglossaceae of Japan III. The Botanical Magazine, 50(600): 671-676.
今関六也, 大谷吉雄, 本郷次雄編著, 1988. 山溪カラー名鑑 日本のきのこ, 623pp. 山と溪谷社, 東京.
城川四郎, 1997. 平塚市博物館資料(46), キノコ類標本目録, 148pp. 平塚市博物館, 平塚.
川村清一, 1954. ゴンゲンタケ. 原色日本菌類図鑑, 7: 785-786. 風間書房, 東京.
工藤伸一・長沢栄史, 1999. 日本産テングタケ属の3新種について. 日本菌学会第43回大会講演要旨集. p13.
工藤伸一・手塚豊・米内山 宏(本郷次雄, 長沢栄史監修), 1998. バライロツルタケ(仮称). 青森のきのこ, pp.78-79. グラフ青森, 青森.
安田 篤, 1915. 菌類雑記(40). 植物学雑誌, 29(341): 192-193.
Yasuda, A., 1915. Eine neue Art von *Cudonia*. Bot. Mag. Tokyo, 29(342): 69-70.

(西村: 神奈川県藤沢市亀井野 1516-202,
藤沢: 神奈川県自然環境保全センター)

